

新建研修視察 in 瀬戸

～わが町見学会（番外編）瀬戸市いまむかし～

2019.06.08（土）

今回の企画者は、星野さんと河合さんです。
参加者は11名（会員6名、会員外5名）でした。

案内人は、前嶋依理子さん（瀬戸市都市計画課）、
7代目水野半次郎さん・水野雄介さん（瀬戸本業釜）。
行程は、尾張瀬戸駅、瀬戸蔵ミュージアム、無風庵、
窯垣の小径資料館、商店街、ゲストハウスますきち、
深川アパートメント（工房作家アトリエ）、法雲寺、
瀬戸本業窯、瀬戸市いまむかしの町あるきでした。



前嶋さんは新建研修視察 in 瀬戸の冊子を作製して
下さり、各パンフレット資料にて現在のまちづくりの

活動とまちの様子を、各施設の管理者の方とともに、案内していただきました。特に空き家対策としての改修活用の現状を見ることができて、とても勉強になりました。起伏ある細い道沿いには、有名な窯垣のあるお家や、垣から生える植物花々が小道を彩り、すばらしい景色だね！と言いながら進みました。窯垣の陶器はもともと窯の中で何度も焼かれた窯道具が不要になったのため作られ、強く焼き締められていて、間にセメントなどない垣なので水はけも良く、こうして地震にもビクともせずに残っているそうです。瀬戸本業窯では、水野雄介さんが、瀬戸のやきもの1200-1300年の歴史や、6代目水野半次郎さんとの交流のあった柳宗悦さんの、生活道具としての陶器、無記名等のお話などを聞かせてくれました。東山→日進→長久手→瀬戸へ平安末期に辿り着いたのは、土・木・水・人を求めての旅で、瀬戸のやきものの生地は特別白く、それは土によるものだそうです。瀬戸土は花崗岩質でガラスの元である珪石を含んだ土で、窯焼きに使ったアカマツの薪も当然その土で育っているので、薪をほおり込んだ窯内壁にガラスのような膜を発見！現在の釉薬です。釉薬を使用したのは瀬戸が最初です。BEAMSとのコラボや大名古屋ビルヂングでの販売など、温故知新で活動されている、すばらしい窯元でした。忘れていたあたりまえの事にあらためて感動する貴重な話をたくさん聞かせていただきました。（報告：黒野）



先祖代々の作品ギャラリー・水野雄介さんに解説していただきました。



無風庵：藤井達吉ゆかりのギャラリー兼休憩所（茶室あり）



ゲストハウスますきち：素敵なリビングあり。1泊 3200円～。



商店街アーケード



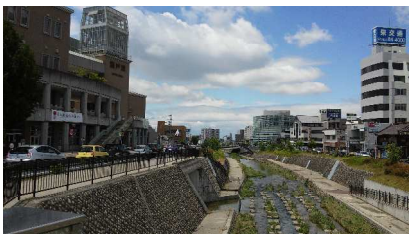
法雲寺（陶製吊鐘）



深川アパートメント



深川神社前の商店街



瀬戸蔵ミュージアム（左）



瀬戸蔵ミュージアム内↑→



旧尾張瀬戸駅



瀬戸本業窯・水野半次郎さん（中央）



息子の水野雄介さんと登り窯



瀬戸本業窯工房にて



連房式登り窯内部にて



石皿（左）とあんどん皿（中央）